

研究発表

印象記

南川整形外科病院 理学療法士 西野 優里

第28回福岡肩・膝リハビリ研究会に参加して



発表演題

①投球障害パンフレットの試み～ドロップアウト・フェードアウトの減少に向けて

理学療法士 前川 凌大

②HyperExternal Rotation Test と段階的投球開始後の投球時痛の関係性について

理学療法士 西野 優里

③当院における前十字靭帯再建患者の主観的評価の術前後推移と影響する因子

理学療法士 平岡 大介

印象記

私は、『Hyper External Rotation Test と段階的投球開始後の投球時痛の関係性について』というテーマで発表させて頂きました。当院の投球障害肩・肘の患者様に投球許可判断の1つとしてHyper External Rotation Test (以下 HERT) というテストを行っています。HERT と、投球許可が出た後の投球時痛は関係しているのかを調査し、投球開始許可が出た後に痛みなく全力で投げる事ができる為にはどのようにリハビリを進めていけばよいのかを医師、理学療法士と情報や意見交換を行い、研究を進めてきました。

投球障害は肩だけではなく全身の柔軟性の低下や、筋力が低下した状態で投げ続ける事で肩や肘に負担がかかり投球時の痛みへと繋がります。全身コンディションが悪い状態で投げ続けると、肩の組織を損傷してしまい手術に陥る場合があります。肩や肘を痛めた原因を追究し、肩や肘に負担が掛からないコンディショニングの獲得方法を指導し、元のレベル以上で復帰して頂けるよう頑張ります。